



みまっぱ子育て通信 第18号

資料 ③

2025年12月17日

みまさか子育てカレッジ実行委員会 発行

美作大学／美作大学短期大学部

岡山県津山市北園町 50

TEL 0868-22-7718

<https://mimasaka.jp/>

親子ひろば「めばえ」

今年度、第3回目の親子ひろば「めばえ」です。0～2歳の子ども達と保護者の方にゆったりと過ごしていただく少人数制のひろばです。感染予防対策を行いながら、地域の子育て広場としての役割を担えるよう、今後も開催を計画しております。どなたでも参加できますので、また是非遊びにいらしてください。

「めばえ」の流れ

12月17日(水)10:00～11:00
(受付は9:30～)

美作大学 多目的ホール(本館2F)

「みんなで育ち合う、子育て」

- 10:00～10:15 自己紹介・歌遊び・親子遊び
- 10:15～10:50 木の玩具やおままごと、ダンボールハウスなど楽しい玩具コーナーで遊ぼう！
- 10:50～11:00 学生によるお楽しみ

美作大学児童学科の教員2名が常駐し、子ども達の主体的な遊びを見守り、子どもや子育てに関する相談に応じます。本学学生が、ボランティアで参加します。

次回「めばえ」開催予定月
2026年1月中旬

場所:美作大学本館多目的ホール
津山市社会福祉協議会様からのメール配信と本学HPにて日時をお知らせいたします。

はぐくみ

*このコーナーでは大学の教員が、保育の専門的視点から子育てに関するメッセージをお届けします。

当たり前のことではありますが、子育ては、こちらの思い通りにいかないことも多いものです。昨日できていたことが、今日はなぜかできなかつたり、丁寧に声をかけたつもりなのに、こちらの気持ちは伝わっておらず、思わずため息がでることだってあります。そんな日が続くと、親として自信が揺らいでしまったり、自己嫌悪してしまうこともあるでしょう。それでも、子どもはそうした「うまくいかないやり取り」を含めて、大人との関係の中で育っていきます。

これは精神分析家で小児科医のウィニコットが語った「グッドイナフ・マザー」という考え方にも通じます。子どものニーズに完璧に応じる親よりも、むしろ、少し失敗したり、迷ったり、行き違ったりしながらも、子どもの気持ちに寄り添おうとする—その「ほどよさ」こそが、子どもの発達を支える土台になると考えました。うまくいかないことがあっても、子どもはその経験を通じて、物事を考え、自分の気持ちを調整し、少しずつ生きていく力を身につけていきます。

誰も「世話をされ、支えられること」から人生をスタートします。しかし、赤ちゃん時代のようにありとあらゆるニーズを満たしてもらえる場面は、成長とともに自然と少なくなっていく。その過程で、子どもはときがっかりしたり、不満を口にしたりすることがあるかもしれません。子どもの思いこましく寄り添えない日があったとしても、それだけで親子の関係が壊れてしまうわけではありません。親としてはほとんど困り果ててしまう瞬間もあるかと思いますが、日々の試行錯誤そのものが、子どもの心の形成に必要なものです。

どうか、できなかったことばかりに目を向けるのではなく、今日の自分を少しだけ労ってあげてください。揺れながらも子どもと関わろうとするあなたは、もうすでに「グッドイナフ(十分に良い)」な親になっていると思います。

○参考文献:Grolnick, S. A(著), 野中猛・渡辺智英夫(訳)(1998).『ウィニコット入門』.岩崎学術出版社.(原著 1990年)

美作大学生活科学部社会福祉学科 講師 光井 麻理

2025年10月31日開催
みまさか子育てカレッジ
親子広場「めばえ」

2025年12月17日
みまさか子育てカレッジ実行委員会 発行
美作大学／美作大学短期大学部
岡山県津山市北園町 50
TEL 0868-22-7718
<https://mimasaka.jp/>



幼児教育学科2年生の学生たちは、「乳児保育Ⅱ」の授業の一環として、乳児の発達に合わせた手作りおもちゃや環境を準備し、さまざまな遊びのコーナーを設けました。感覚統合や運動能力の発達を配慮して準備された感触遊びやシール貼り、マット・はしご・ボールプールなどを通して、子どもたちはそれぞれの興味に沿って夢中で遊んでいました。



たくさん自由に遊んだあとの最後のお楽しみは、親子で触れ合うわらべ歌や季節の童謡、ペープサート、手遊びなどの時間でした。学生たちのゆったりとした優しいリズムに合わせて体を揺らしたり、声を合わせて歌ったりしながら、みんなで心温まるひとときを過ごしました。